



7.2haの農地では葉物を中心に作付け。ハウス前の道は「RUSHロード」と呼んでいるそう。

永利侑太朗さん…
エンジニアを始め、皆さんに感謝です。

市長…この度は、「農林水産大臣賞」受賞で、明るい話題をありがとうございます。先日は、県知事からも、就農者確保が難しい状況下、現場の課題解決を与える素晴らしい技術だと、お祝いの言葉がありましたね。

市長…業務を可視化して評価をするという点は、導入したい企業も多いと思います。ちなみに、宮崎に本社を構え、全国の店舗を24時間一元



「将来、1日の歩数や、キュウリの収穫を、全国の農家で順位づけして競っても面白そう」と侑太朗さん。システムを使ったアイデアは尽きない様子。

特別対談

「RUSH FARM」× 加地市長
新システム導入で、
“農業”を大幅に効率化！

農業×ITで、
効率・生産・幸福度UP！

栄誉ある農林水産大臣賞受賞の吉報を聞きつけ、加地市長がシステム活用の現場を視察しました。



現在従業員は15人。誰がどこで何をしたかが、簡単にチェックできる。

侑太朗さん…逆に体を使う作業では、1日3万歩を歩く時もありま

市長…業務を可視化して評価をするという点は、導入したい企業も多いと思います。ちなみに、宮崎に本社を構え、全国の店舗を24時間一元



祝！農林水産大臣賞受賞



シンプルな画面は、ITに不慣れな世代や、外国人実習生でも簡単に使いこなせる工夫が施されている。

両親が広げてきた農業をITで管理。農業の管理システムを若き二代目が開発・導入

小郡を生かす武器とアイデア。

農業に明るい未来を！



株式会社RUSH FARM取締役 永利侑太朗さん(31歳)

父・永利侑次さんが社長を務める農業生産法人「RUSH FARM」の取締役として、今後の円滑な経営継承に注力している侑太朗さん。 「農家がやる作業のすべてのデータを自動化したい」と、野菜の生育状況、作業内容、肥料成分、収穫量、販売状況をインターネット上に集約し、スマートフォンやタブレットで管理するシステムを、エンジニアと共同開発しました。



学生たちが考える観光

小郡市×福岡女学院大学



福岡女学院大学講師・片岡宏二さんは、「観光客により経済効果が上がることは一つの指標。大事なものは、地域の人々がそれでどれだけ幸せになったか」と教示。

発表後は授業を振り返り、「新しい住宅街ができる中、一方で不動産価値のある土地でも遺跡をちゃんと守っているあたりが、小郡ならではの」「遺跡ツアーを開催して欲しい」「昔から変わっていないという田園風景を見ると、まちを守っている地域の人たちの姿勢が、まちの魅力だと思った」と語ってくれました。

市と福岡女学院大学は、昨年「小郡市観光まちづくり調査研究事業に関する協定」を締結。学生たちは市内を視察し、まちの人との対話を交えながら、観光資源とまちづくりの方向性を考察してきました。昨年12月開催の「市の観光まちづくりを考えるシンポジウム」では、小郡を訪れる側としての視点だけでなく、迎える側、支える側も含めて「観光」と捉え、市外在住の3人の学生が、おのの考えを発表しました。

昔から変わらない風景を守る人たちがまちの魅力。市民を幸せにする観光まちづくりとは？



9人のベトナム人実習生が活躍。自ら考えて動くことで、知識もUP!

市長…農業が盛んな小郡の土地柄を生かし、例えば農業提携を結んで、小郡で学んだ技術を母国で生かしてもらおう手助けの方法もあるかもしれませんね。

農業技術と日本語、そして今回のシステムを取得できたら、母国での農業の実現性も高くなりますね。

直売所は交通網を生かした豊富な品揃えを武器に。

市長…小郡は、特産品と言えるものがまだあまりないので、交通の利便性を生かしてあらゆるモノが集まったマーケットを成り立たせたいと思っています。その中で売れ筋を見つけ、地域の方々に作っていただければ、農家さんにも安心して生産してもらえるのかなと。だから、他の道の駅に負けないために、何が今一番新しいかを、各分野の専門家にご意見をいただいているところです。

市長…消費地が遠い地域は、他と差別化できるブランドを作って勝負しますが、小郡市は物流的にも環境的にも何でも作ることができる恵まれた土地で、売る場所も近い。ただ、みんな揃って収益性の高いものを作っているのが現状で、どうしても水菜、小松菜に偏ってしまっています。

市長…「特産品がない」「特徴がない」からできないかと思いがちだが、何でも作ることができるからこそ、売れるものに絞ってブランドینگすることも可能。そう考えれば、可能性は山ほどあるってことです。勝負できると分かれば、栽培はすぐに取り組みそうですか？



市次さんの妻・美津枝さん（取締役）は、調味料の商品を手がけ、農水省「フード・アクション・ニッポンアワード2018」100選に選出！

市次さん…取り組みますね。その強さがあります。ただ、直売所は珍しいものを買いたいに来る方が多いので、人が作らないものを出さないと売れない。やっぱり魚のある宗像や糸島は強い印象がありますよね。

市次さん…スイーツは他にないのでは？小郡は和洋共にいいお店があるので、いい気がします。

市次さん…まさに「ここに来ればいろんなものと出合える」というバラエティに富んだ食のスポットですね。時には、物産展みたいに九州中から特産品を集める企画もやりたいです。魚だって他の地域から持ってくることもできる場所です。

市次さん…直売所は、ルールや商品のバランスが大事になってくるので、農家と積極的に結びつきをもつ



藤田佳奈子さん
(大学2年生)

守られてきた背景を知り、地域の方々の思いの強さが印象的だった。建物に残る昔の風習などは驚きがある。



旧松崎旅籠油屋



濱地早紀さん
(大学2年生)

かえるの置物や風鈴がインスタグラマーを惹きつけている。外国人や学生の意見を積極的に取り入れては？



如意輪寺(かえる寺)



井戸川未来さん
(大学2年生)

名前と歴史を生かすインパクトが欲しい。祭りの屋台に学生が参加し、売上を名物作りの予算に充てては？



七夕神社

気軽に参加してみよう！

活動中！

地域エスコートプログラム



事業者応援 × 空き家や空き地の地域資源を有効活用して新しい魅力を作り出す取組。

おごおりセタプロジェクト



「七夕」を小郡の地域ブランドとして活用し、賑わいづくりやまちの活性化に取り組むプロジェクト。

小郡魅力化計画



「もっともった魅力的なまちにするための企画」を考え実践する、市主催の講座。

おごおりチャンネル

小郡市の魅力ある場所・店・人をYouTube動画で楽しく発信！



まちづくりの取組

小郡のまちの魅力を再発見して発展させるために、さまざまな視点でまちづくりのプロジェクトや企画が行われています。開催は市のホームページやフェイスブックで発信しています。

市次さん…面白いアイデアがいっぱいですが、体験モノは魅力ですし、実現できれば本当に素敵です。

市次さん…この干潟エリアをもっと賑やかにするために、例えばポニーを2頭ほど飼って、子どもたちを乗せて、ハウスの周りや田んぼを収穫して巡る散歩コースとか、収穫祭をやれたらなって。米・麦・野菜の農地を周遊して、実際に農業を見てもうと面白いと思うんです。

市次さん…管理システムはまだ完成形じゃないので、基盤を作っちゃんと運用できたら、僕は身を引いて本当に自分がやりたい農業だけをしたいなって(笑)。そして、教える側に回りたいと思っています。

市次さん…「今後、実現してみたいことは？」

市次さん…「管理システムはまだ完成形じゃないので、基盤を作っちゃんと運用できたら、僕は身を引いて本当に自分がやりたい農業だけをしたいなって(笑)。そして、教える側に回りたいと思っています。」